

序 文

穴戸 文男

福島県立医科大学医学部放射線医学講座

本研究会の事務局を長年担当された木村和衛先生(本会特別会員)が4回にわたる本誌への特別寄稿(1-4)の中で述べておられるが、本研究会のスタート当時(1973年)のメインテーマはX線断層であった。その後、X線CTの普及とともに1970年代後半から1980年代はCTがメインテーマとなる。また、MRI、超音波、核医学などデジタル画像の裾野が広がっていく。1980年代後半になると、MRIがもて囃されるようになり、CTの地盤沈下が囁かれていた。しかし、その様な風潮の中で、1989年にヘリカルCT方式が実行可能なことが確認され、90年代になるとヘリカルCT(スパイラルCT)が製品化されに至った。その画像診断への貢献は大きく、再度CTの時代が到来した感があった。3次元CT、3次元画像診断など眼を見張る画像で溢れるといった感じがした。そして、1998年にCTも多断層装置(マルチスライスCT)が発表され、1999年には患者での使用が可能となった。検出器が4列で、1回転0.5秒で4列のデータ収集が可能な装置である。その後の開発競争も激しく、4列から8列へ、そして現在は16列の装置が発表されているし、試作ではあるが、256列の装置が製作されつつある。ここ数年のCTの進歩は、70年代のCT開発競争を思い出させる。

マルチスライスCTが開発され、臨床に利用され、学会や研究会での議論は盛んに盛り上がっている。しかし、高価な装置であり、いくつかの批判の声が上がっていることも事実である。「果たして本当にマルチスライスCTは臨床上有用なのか?」ヘリカルCTが開発されてから、1スライスが4スライス、8スライス、16スライスと多断層化するスピードが速く、その臨床的な価値を見定める必要があるが、装置の開発スピードに追いつかないのではないかと心配している。

現在の医療の考え方として、EBM(evidence based medicine)という考え方が流行の兆しがある。統計学的に有効な治療法を確定していき、確定された治療法を標準的な治療として、それ以外は定まって方法ではなく、医師の裁量権の責任で患者に適応していくとする考え方、と私にはみえる。従って、EBMで検証された以外の方法を行い、意図した結果が得られないと医師の責任となるのではないかとという危惧がある。

しかし、現状のCTの進歩をみると、EBMに認められるようなデータの蓄積を待っていると結果が得られた頃には、その機械と方法は古くなっており、更にまた同じような研究を続けなければならなくなる、という危険性がある。

そこで、このような進歩が急峻な時には、まともな症例でなくとも、臨床上有効である、という報告を積み重ねておく必要があると考える。進歩した装置と新しい考えで行った方法がこのように臨床上有効だったとする報告を掲載することが本誌の役目のひとつであろうと考え、以下のような特集を企画した。

テーマ：「マルチスライスCTの有用性」

1. 脳神経系におけるマルチスライスCTの有用性と問題点……………岩手医科大学 佐々木真理先生
2. 心疾患におけるマルチスライスCTの有用性……………岩手医科大学 吉岡邦浩先生
3. Multidetector CT を用いた急性腹症の評価：消化管病変を中心に……………石巻日赤病院 高瀬圭先生
4. 気管支動脈瘻におけるマルチスライスCTの有用性……………福島県立医科大学 宮崎真先生
5. マルチスライスCTの胸部大血管への応用：肺動脈造影と肺静脈・大動脈造影分離撮影……………福島県立医科大学 橋本直人先生
6. マルチスライスCTにおける最適パラメータと被曝線量の検討……………福島県立医科大学 片倉俊彦先生

このような考え方に立つと、多く本会の会員の先生方からの投稿をいただけるものと考えているが、取りあえず私の考えに賛同していただける数人の方々にお願いした。距離的にも、個人的にも近くということで、東北地方ばかりとなってしまったが、この特集が呼び水になり、私のところにもこんな興味ある症例がある、とのことで投稿していただけるのではないかと期待している。

本研究会が発足してから、まもなく30年になろうとしている。本会の発起人である高橋信次先生、松川明先生の創刊の辞にもあるように、「撮影方法を更に改良し、理解し、より良い診断を行うことは我々の責務」であり、それを助けるのが本誌の役目であろう。この特集が、本研究会と本誌の更なる活性化の一助になれば幸いである。

- 文献
1. 木村和衛：断層映像研究会の歴史と役割(1) 断映研会誌 26(2): 103-105, 1999
 2. 木村和衛：断層映像研究会の歴史と役割(2) 断映研会誌 27(2): 91-95, 2000
 3. 木村和衛：断層映像研究会の歴史と役割(3) 断映研会誌 28(2): 116-121, 2001
 4. 木村和衛：断層映像研究会の歴史と役割(4) 断映研会誌 29(1): 33-38, 2002